

From Ibigawa S A B O

早いもので、今年度も残り1ヶ月となります。暖かい日があったりと、少しだけ春の訪れを感じます。今号では、先月号に引き続き完了した工事4件をご紹介します。皆様のご協力に感謝申し上げます。

上大須溪流保全工事 ～ICT技術の活用～

【工事概要】

当工事現場は、本巣市根尾樽見の中心地から約14km北に位置する山間部で、根尾東谷川の「NEOキャンピングパーク」の上流域になります。本河川では、上流からの堆積土砂が著しく増加していることから、洪水時に下流域への土砂災害を防止するため、堆積土砂の除去を実施しました。掘削した土砂（約12,000m³）は、東海環状道の盛土として有効活用されます。

本工事では、工事全般にわたりICT技術を活用し、生産性の向上を図りました。[UAV空中写真測量、3次元設計データ作成、ICT建設機械による施工、UAV写真測量による出来形管理、3次元データ納品などを実施]



現場技術者の声

この工事における主なICT技術は、UAV（ドローン）空中写真測量における起工測量と出来形管理、3次元設計データと連携したICT建設機械による施工です。ICT建設機械のMCバックホウは、設計以上の過掘を制御するため、丁張り及び施工途中の測量の必要が無く、建設機械に作業員が近寄ることが無いため、接触・転落のリスク削減に繋がりが、安全性が向上しました出来形管理においては、平場（河床）の約7,300点（1点/1m²を評価）は全て規格値を満たす良好な結果で、ICTを活用したことで施工性が向上しました。UAV空中写真測量等は、今回のような小規模でない土工事には、優れたICT技術だと実感しました。



（監理技術者：
増元 隆）

かみおおす
(H28 上大須溪流保全工事：(株)所組)



ICTバックホウ
による掘削状況

ナンノ谷砂防堰堤1号道路工事

【工事概要】

木曾川水系揖斐川右支川坂内川ナンノ谷において、老朽化した既設堰堤（ナンノ谷砂防ダム1号・2号）の改良築に伴う、仮設道路の施工を行いました。



現場技術者の声

河川内の土砂を掘削し、発生土を流用して切廻し道路の盛土として施工していきました。台風の時期には河川の増水により河床まで越流し法面を痛めることがありましたが、オペレータの配慮で事前に河川内に石積み状に転石を利用することにより大きく損傷を受けることなく、工事を進めていくことができました。

地域の方々、関係各所の協力もあり、当現場は無事故、無災害で工事を終えることができました。ご協力ありがとうございました。



(H28 ナンノ谷砂防堰堤1号道路工事
：(株)久保田工務店)

（現場代理人：
曾我部 裕司）

坂内白川流木対策工事

【工事の概要】

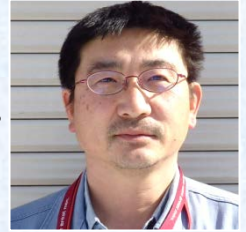
当工事現場は、揖斐川町坂内坂本の諸家地区の上流に位置し、県道揖斐高原線に沿って流れる白川の支系となります。

平成24年9月大雨の氾濫被害を踏まえ、品又谷にある2つの既設堰堤を土砂処理だけでなく、流木捕捉も可能な堰堤に改良する二期目の工事となりました。



現場技術者の声

河川の締切りが伴う出水期の施工となり、台風や大雨等が懸念されましたが、例年より少なく非常に助かりました。無事故で工事完了できましたことは、「安全第一」で作業して頂いた、協力業者の皆様のお思っております。また、本工事を温かく受け入れて下さった諸家地区の皆様方のご理解・ご協力に対し感謝申し上げます。



(監理技術者：
棚橋 伸仁)

有難う御座いました。

さかうちしらかわ
(H28 坂内白川流木対策工事：(株)山辰組)

下河原谷第1砂防堰堤本堤工事

【工事の概要】

当工事現場は、岐阜県と福井県の県境から岐阜側に約10kmの位置にある、下河原谷と大河原岡谷の2つの谷の砂防堰堤工事です。

下河原谷は平成26年8月の台風により発生した土石流災害に伴う砂防堰堤工事で、今期で2期目となります。

大河原岡谷は、今期で竣工となりました。クマタカ通信vol.127(平成28年9月30日発行)「大河原岡谷第1砂防堰堤が完成！」を参照。



下河原谷第1砂防堰堤

現場技術者の声

大河原岡谷は今期工事で竣工と言う事もあり、現場の出来映えに対しては勿論ですが、4期に渡り御協力頂いた地域の方々に満足頂ける様な現場作りに努めました。また、下河原谷は今期工事では本堤及び左岸側のみの完了でしたが、構造物が国道より程近くに有る為、景観、取付部の施工に対し特に留意しました。



(監理技術者：
守田 康司)

しもがわらたに
(H28 下河原谷第1砂防堰堤本堤工事：(株)所組)



冬だより ~まばゆい白銀の世界~

厳冬期のピークが過ぎましたが、越美山系はまだ積雪しています。GW前の安全利用点検を行った揖斐川町坂内の貝月谷では、2月初旬で1m程の雪が積もりました。すっかり装いが変わり一面の白銀の世界に魅了されました。



4月の安全利用点検時



雪化粧ですっかり様変わり
(2月初旬)

里山探検隊 隊員募集中!!

山間部の自然、暮らし、土砂災害の様子や下流域との関わりを学んで頂く事を目的に活動を行います。

砂防事業に触れていた
だけの良い機会になる
と思います。
H29年度も引き続き実
施致します。



◎募集要領は [こちら](#) をクリック (事務所HPへ)

※法人については文中敬称略



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。
また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。

発行 国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626
E-mail: cbr-ibigawasabo@mlit.go.jp



コラム：建設業界の賃金と人手不足について

越美山系砂防事務所長 伊藤 誠記

先日、平成28年の日本の賃金水準が公表されました。みなさんご存知でしょうか、建設業界の賃金水準は、年収ベースで全産業平均よりも約40万円高く、製造業よりも約30万円高い水準です。（図-1、パートタイマーを除く）

一方、建設業の人手不足感は、昨年11月時点で全産業平均より7ポイント高く、医療・福祉、運輸業・郵便業に次いで上位3番目に不足感が強い結果となっています。（図-2、臨時、パートタイマー、派遣社員を除く）

建設業界の賃金は平均よりも高いのに、人手不足感は平均よりも強いという結果です。これは一体どうしたことでしょうか？理由はいろいろ考えられますが、2つほどご紹介します。

まず思いつくのが、休日が少ないなど、労働条件が他業種に比べ劣っているのではないかということです。図-3は、産業別の**完全週休二日制を採用している企業割合**です。**建設業は、平均を大きく下回り、16産業中13番目に位置**します。なお、調査対象は比較的大きな企業（30人以上の事業所）に限られますので、小企業も含めた実際の数字はもっと少ないと思われます。

越美砂防でも今年、完全週休二日の試行工事を始めましたが、完全週休二日の拡大は、賃金が上昇傾向の「今」しかないと考えます。個人的には、いつまでも「試行」ではなく、砂防工事への適合性を確認しつつ早期に拡大し、建設業の完全週休二日への取り組みの後押しをしていきたいと考えています。

2点目として、世の中の大多数が、建設業は賃金が低い産業だといまだに思っているのではないかということです。リーマンショックなどの影響を受け、建設業界の賃金水準は一時期かなり低い水準となりましたが、その後、人手不足と建設投資の拡大により順調に回復しています。しかし、就職を考えている人、学生を送り出す学校の先生や親もおそらく「平均以上に稼げる職業」と思っている人は少ないのではないのでしょうか。

逆に建設業には、労働条件面でいい要素もあります。地域の建設業では、転居を伴う異動があまりありません。これは、近年の若手世代の「地元志向」「共働き志向」に合致しています。

やや余談ですが、若手世代の「地元志向」は、「外の世界へ打って出る覇気がない」と嘆かれることも多いのですが、私は、①二男・三男が相対的に減少し、親が長男長女に世界で羽ばたくのではなく、自分の近くにいてほしいと期待した結果 ②転居を伴う異動を繰り返すよりも、住所を変えず共働きの方が経済的に豊かな暮らしができると若手世代が判断した結果 などが絡み合っていることが理由ではないかと考えています。

このように、若者（と親世代）たちが、就職市場を自身のニーズと照らし合わせて合理的に判断しているのであれば、「建設業はイメージが良くないから」と諦観するだけでなく、弱みを解消する努力を続けるとともに、「平均以上の賃金」や「転居なく地元で働ける」など、強みを親や学校に粘り強く説明・周知することも、人手不足を解消する手段ではないかと思えます。

図-1 平成28年度 産業別賃金水準(年収ベース)

